



Title	地域の開放と持続可能性を両立する地域創造モデルの提案：京都府網野町琴引浜のケーススタディからの分析
Author(s)	敷田, 麻実; 末永, 聡
Issue Date	2002-05-25
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/35575">http://hdl.handle.net/2115/35575</a>
Type	conference presentation
Note	漁業経済学会第49回大会. 平成14年5月25日～平成14年5月26日. 東京都 要旨の出典：2002年漁業経済学会第49回大会報告要旨集. p.9
Additional Information	There are other files related to this item in HUSCAP. Check the above URL.
File Information	1188.pdf



[Instructions for use](#)

# 地域の開放と持続可能性を両立 する地域創造モデルの提案

## 京都府網野町琴引浜の ケーススタディからの分析

金沢工業大学 環境システム工学科  
敷田 麻実  
北陸先端科学技術大学院大学 知識科学研究科  
博士課程 末 永 聡

### 研究の目的

新しい沿岸域管理のモデルの提案である。

提案するモデルは、地域創造のメカニズムも同時に説明することができる。

### 研究の背景

自然環境の管理において、地域外の利用者は“邪魔者”なのだろうか？

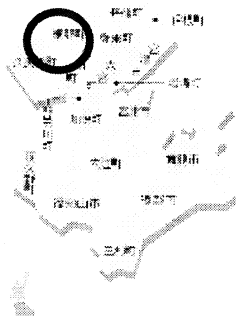
そうではなく、むしろ地域外の利用者と協働して、問題解決ができれば、多面的な利用が進んでいる現在の沿岸域では、より説得力のある「利用の調整」が可能になるのではないだろうか。

### 研究の方法

京都府網野町琴引浜の鳴き砂保護活動に対してケース・スタディを実施し、そこからモデルを考案した。

### 網野町の地勢

網野町は、京都府の北部、丹後半島の子午線上に位置し、人口約 17,000 人、東西 14.6km・南北 11.6km と日本海に沿ってやや長く延びている。海岸線は若狭湾国立公園・山陰海岸国立公園に指定されており、琴引浜、八丁浜、夕日ヶ浦というそれぞれ趣の異なる浜を有する。



出所：京都府ホームページ <http://www.pref.kyoto.jp/city/hokubu.html>

基幹産業は「丹後ちりめん」に代表される織物業だが、近年では観光にも力を入れており、冬場の「ズワイガニ」などを目玉に、主に関西方面から多くの観光客を集め、夏と合わせて年間 50 万人を超える人が訪れている。

### 琴引浜の写真



### 琴引浜の地理（注 1）

琴引浜は京都府丹後半島の西側基部に位置する網野町にあり、その規模が延長 1.800m にわたる日本で最大級の鳴き砂の海岸である。この海岸線は若狭湾国立公園に含まれる風光明媚な景勝地で、昭和 62 年に「全国白砂青松百選」、平成 8 年に「残したい日本の音風景百選」と「日本の渚百選」にも選定されているが、この三つの百選に選ばれているのは、全国でもこの琴引浜だけである。

### 琴引浜の特色（注 2）

琴引浜は、コンクリート護岸やブロックなどの人工的な構造物がなく、自然海岸の状態で保たれている。

砂の鳴らし方は、足で擦るように歩いたり、手で強く砂の表面をかくようにするとキュッ、キュッと良い音ができる。また、乾いた砂を寄せ集めて小山に盛り上げ、その小山を両手で強く押すとブッと低い音ができる。ただし、雨で砂が濡れていると鳴かない。

### 琴引浜の歴史（注 3）

戦国時代の武将で丹後・田辺城主であった細川幽斎やその息子の忠興の妻・細川ガラシャ（明智光秀の娘）が琴引浜や太鼓浜を和歌にうたっている。また、江戸時代の地誌として有名な「雲根誌」（木内石亭著）や「丹可府志」などにも記録があり、このように歴史の文献に鳴き砂が記録されているのは琴引浜だけである。

以上注 1～3 は全て「琴引浜の鳴り砂を守る会」ホームページから抜粋

<http://www2.nkansai.ne.jp/org/sea-man/index.html>

年表

年月	内容
1976	琴引浜の遊歩道建設計画に対して、同志社大学工学部三輪茂雄教授から町長宛に鳴き砂保護と遊歩道計画に関する要請文が届く。
1976	琴引浜が名勝として網野町指定文化財となる。
1981	鳴き砂が天然記念物として網野町指定文化財となる。
1985/10	網野町が琴引浜「鳴き砂」の保護と活用を考えるシンポジウムを開催。
1987/1	琴引浜が(社)日本松の緑を守る会の「日本の白砂青松百選」に選定される。
1987/6/13	琴引浜の鳴り砂を守る会が発足。この頃より京都市東山高校地学部調査が始まる。
1989/9	網野町に「八丁浜開発計画 (CCZ 計画) についての要請状」を提出。
1989/12	京都府に「CCZ 計画にかかる公有水面埋め立てに関する意見書」を提出。
1990/2/4	伊根町海岸に座礁した貨物船 (マリタイムガーデニア号) から流出した重油が琴引浜に漂着。守る会会員と町職員で除去作業を実施。
1990/7	鳴き砂の保護対策について網野町と協議し、町の保護対策を制定する。
1991/6	網野町に対して「鳴き砂の保護と八丁浜埋め立てに関する要望書」を提出。
1992/3	島根県仁摩町で行われた「砂と文明を考えるシンポジウム」に参加。
1993/8	琴引浜を会場に「はだしのコンサート」が初めて開催される。
1994/9	網野町で初めて「全国鳴き砂サミット」が開催される。併せて参加市町により「全国鳴き砂ネットワーク準備会」が開催される。以後、毎年、会場を変えて開催。
1994/11	島根県仁摩町で開催された「世界鳴き砂シンポジウム」に参加。
1995/6	守る会が京都府知事より「自然環境保全功労者」の表彰を受ける。
1996/5	守る会が(社)全国海岸協会より「海岸功労者」表彰を受ける。
1996/6	琴引浜の鳴き砂が環境庁の「残したい日本の音風景百選」に選定される。
1996/7	琴引浜が大日本水産会等の「日本の渚百選」に選定される。
1997/1	琴引浜に漂着する医療廃棄物の対策について、厚生大臣に要望書を提出。
1997/1	ロシアタンカー「ナホトカ号」からの流出重油が大量に漂着。守る会が中心になり、3月末まで重油回収作業を行う。
1997/4	守る会が平成8年度網野町文化賞の表彰を受ける。
1997/9	「海の環境保護を考えるシンポジウム」を開催。
1998/6	守る会が、環境庁より「地域環境保全功労者」表彰を受ける。
1999/7	琴引浜を禁煙ビーチにする取組を始める。
2001/3/29	網野町議会が「美しいふるさとづくり条例」を可決。

参考：三浦到 (2001) 「鳴き砂の保護」 - 網野町における『鳴き砂』保護の条例化に向けて -

立命館大学地域情報研究センター編『丹後地域文化オープンカレッジ』古今書院, pp.236-238.

を一部改変

モデルの説明

